

CHESS

Magazine

#9

September 2023
japanchess.org

Interview
山田弘平さん

[自戦記]
FM 青嶋未来
小野大志
Poggenpoel Flipi

ジャパンチェスクラシック 2023 in 神戸

21st ASEAN+ Age-Group Chess
Championships 2023レポート
長瀧航太 岡部悠真

全日本ラピッドチェス選手権2023 他



Japan
Chess
Federation

Tournament Report

特集

03 ジャパンチェスクラシック2023 in 神戸

赤井清隆

07 [優勝者自戦記] 充実の4日間 青嶋未来

10 [参加者自戦記] 小野大志

15 [参加者自戦記] Flipi Poggenpoel

17 全日本ラピッドチェス選手権 2023 神田大吾

19 チェス・トーナメント 第11回九州チーム選手権 in 伊万里レポート
末次健太郎

20 夏のチェスフェスティバル2023、第18回札幌サマーチェス大会

海外大会参戦レポート

21 21st ASEAN+ Age-Group Chess Championships 2023

長瀧航太 岡部悠真

Interview

23 山田弘平さん

27 古瀬瑞季さん

30 チェス大会 in アメリカ NO.71 上杉賀子

32 初心者向け メイト・ジム 山田明弘

33 編集後記 神田大吾





特集：
ジャパン
チェスクラシック
2023 in 神戸



2023年7月14-17日の4日間
兵庫県神戸・三宮の海側にある
旧生糸検査所を改修したデザイン・
クリエイティブセンター神戸
(愛称:KIITO /キイト)で7Rの
トーナメントをしました。

大阪阿倍野チェスクラブ主催
の、旅行で行きたい観光地での
チェストーナメントシリーズの流れで、
去年の熱海に続く企画であります。

2年前から神戸開催は準備され、
幾つかのプラン会場調査決定に1年、
各種調整で阿倍野の独自開催、
FIDE戦6Rを考えていましたが、
日本チェス連盟様のクラブ懇談会
などで、6Rを7Rにしてジャパン
チェスクラシックに格上げして日本
チェス連盟、阿倍野チェスクラブ
での共同開催となりました。

ました。

大阪阿倍野チェスクラブの大阪
市内通常トーナメントはリーダー
高島さんの取仕切り、各大会ポ
スターも高島さんの担当、自由
度の大きい企画トーナメントは
赤井の担当となっています。

僕の目指すのは、海外の都市で
開催されるチェストーナメント
(90-00年代によく参加したシ
カゴオープンなど)を日本流にア
レンジしたもので、宿部屋から
コンベンションホールの会場など
直結のホテルタイアップをお手
本としたものですが、いつの間
にか、神社仏閣、観光名所、温
泉街などが主戦場になりました。

僕たちはとても古い関西のクラ
ブなので、年に一度はFIDE公式



JAPAN CHESS CLASSIC





SIC 2023 **in** Kobe

2023. 07.14 Fri. -17 Mon.

戦を近畿管内で主催提供したいと思いますが、また同時に魅力的な場所で参加を頂いた多くの競技者と記憶に残るトーナメントにしたいと思います。

ジャパンチェスクラシック 2023 神戸に参加された皆様、遠いところから、ようこそ。ゲームを楽しまれましたでしょうか？神戸はどうでしたか？

トーナメントの評価は、参加された方がされるでしょう。

トーナメントの結果は日本チェス連盟のHPで発表されており、大会を運営していたスタッ

フチームもあと始末が終われば解散です。お疲れ様。また新しい企画、開催地でお会いしましょう。とすることで、来年の企画トーナメントの予告です。

2021年10月の終わり、僕は京都の祇園に居て、トーナメントの収束にこう書きました。「参加者の方に大広間の窓から見える樹木がいいとお聞きしたので次回は風景を期待して、ハイシーズンを少し避け、秋も深いですが紅葉の残る、三年後の2024年11月29、30日、12月1日の金土日を予定します。チェスファンの皆様、3年後の秋の祇園でお会いしましょう。」

これが「京都祇園オープンIII チェストーナメント」のことで、予定通り来年の秋に開催します。祇園IIIは開催しますが、これでこの企画はおしまい、祇園IVはありません。皆様奮ってご参加ください。それでは、またお会いしましょう。棋力と共にあらんことを。



文／赤井清隆

副リーダー 大阪阿倍野チェスクラブ

ジャパンチェスクラシック2023

◆ オープン

1位	FM 青嶋未来	6.0/7p
2位	IM 南條遼介	6.0
3位	CM Tran Thanh Tu	5.5
	松山紘也	5.5
	IM 小島慎也	5.5
6位	Song Samuel	5.5

◆ U1800

1位	Chen Muxi	4.5/7p
2位	遠藤秀馬	4.5
3位	黒田裕之介	4.0
	小野大志	4.0
	松永冬馬	4.0
	山元聡一郎	4.0
	武藤勇宏	4.0
8位	Poggenpoel Flipi	4.0

◆ U1500

1位	柳井愉也	4.0/7p
2位	Minami Kazuki	4.0
3位	You Qingyi	3.5
	松岡淳一郎	3.5
	荒木大	3.5
	Jin Sangwoo	3.5
7位	三津山六花	3.5



運営スタッフ



オープン



U1800



U1500



優勝者自戦記
青嶋未来

充実の4日間

ジャパンチェスクラシック 2023
神戸 優勝者自戦記

初めて神戸での大会の参加となり、メンバーもレベルが高く、非常に楽しみにしていました。前日入りして、夜は元町で食べ歩き、当日の昼も神戸牛を食べて満喫していました。神戸は店も豊富で街並みも素晴らしく、非常に気に入りました。住みたいなあと思いつながら歩いていましたね(笑)

さて、大会ですが初戦から苦戦します。

Takayasu Melody

Aoshima Mirai

Japan Chess Classic 2023(1)

1.e4 c5 2.Nf3 d6 3.d4 cxd4
4.Nxd4 Nf6 5.Nc3 Nc6 6.Be3?!
Ng4 7.Nxc6 bxc6 8.Qd2 Nxe3
9.Qxe3 Qb6 10.Qxb6 axb6 11.f4
g6 12.Bc4 Bg7 13.Nd1 O-O
14.c3 b5 15.Bb3 Be6 16.Bxe6
fxe6 17.g3 Ra4 18.b3



展開で勝っている上に白の



青嶋 -Bibby 戦

a2,b2,c3,e4 のポーンは全てターゲットにしやすい形で、早くもかなり黒が優勢です。そこでルークに当ててきました。

18... Rxe4?? 19.Kd2!

何も考えずに手拍子で e4 のポーンを取ってしまいました。しかしこれを取るとルークの行き場がなく、Nf2 でトラップされてしまいます。あまりにも酷いので呆然としていました。

19... d5 20.Nf2 Re5 21.fxe5
Rxf2+ 22.Ke3 Rf5 23.a4



a がパスポーンになるのもなぜか見落としており、むしろ敗勢になっています。そもそもキングが遠いので、普通の手ではパスポーンを止めることはできなさそうです。実戦はなんとか a ポーンを止

めて立て直し、逆転に繋がりましたが、内容が悪く、今大会は勝てないだろうと内心思っていました。

しかし内容はそこから改善され、最終日を迎えた時点で私が全勝で一歩リードしており、逃げ切れるかという戦いになりました。

6R の Bibby 戦、このような図を迎えました。24.Qe4 まで。



f はダブルポーンですが、c5 がパスポーンで黒のピースが押し込まれている形で、難しいですが主導権はあると思っていました。

24... a5 25.Rb2 a4 26.Ra1 f5
27.Qc2

しかし、a ポーンを伸ばされ、センターにいるクイーンも押し返

され、流れが悪いです。むしろ黒にチャンスが来ていそうです。

27...Qc6 28.Qxa4 Qxf3 29.Qb3 Qe4 30.Qe3 Qg4+



ここでドロオファーを受けました。非常に難しい選択を迫られます。

まず形勢判断から難しいです。白はキング前に弱点を抱えていますが白マスビショップは盤上に無いのですぐメイトスレットを作られることはないでしょう。しかし白もビショップがピンでc5のポーンも動かせず、クイーンサイドの進展も難しいです。31.Qg3? は31...Qxd4でポーンを取られるので31.Kh1が正着です。黒も31...Bg5や31...Bf6などでe6のポーンを捨てる代わりにビショップを参加させ、かなり難しいポジションでした。

試合中は自信があまりなく、残り時間が1分台と切迫していたこと、ドロでも首位をキープできるという理由で迷いながらオファーを受けました。

もちろん続けてもドロかもしれないし、どちらが勝つことも十分あるでしょう。ただ中継を見て互角と知ったときは後悔しました(笑)

最終戦は、勝てば優勝、ドロですと他の結果ではタイブレーク次第となります。

ですが、試合の方は早い段階で知らない形に進み、完全に苦しい形になってしまいました。自分の負けパターンに入り、気分も落ち込んでいましたが、それでも最善を尽くさなければいけません。

Kojima Shinya

Aoshima Mirai

Japan Chess Classic 2023(7)

1.Nf3 d5 2.d4 Nf6 3.c4 e6 4.Nc3 Nbd7 5.Bf4 dxc4 6.e3 Nd5 7.Bxc4 Nxf4 8.exf4 Nb6 9.Bb3 Be7 10.O-O O-O 11.Qe2 c6 12.Rfe1 Bf6 13.Rad1 a5 14.Ne4 a4 15.Bc2 Nd5 16.g3 g6 17.a3 Bg7 18.h4 Qb6 19.Bb1 Bd7 20.h5 Rfd8 21.Rd2 Be8 22.Ba2 Qc7 23.hxg6 hxg6 24.Kg2 b6 25.Rc1



e6,f7にナイトでプレッシャーを掛けられたら苦しいと思っていたので、立て直すチャンスだと思いました。

25... Ra5?

今見ると、ひどい手ですね(笑) 黒はc5~Bc6となれば、眠っていたビショップをキングを狙える急所に配置することができます。25...c5 26.dxc5 Nf6!が正着ですが、ポーンを捨ててナイト交換を迫る組み立てはなかなか指せません。



小島 - 青嶋戦

しかし、c6-c5 を狙うなら明らかに 25...Rac8 の方が良いです。結局この形ですと c5 と伸ばしてもクイーンがピンな以上、ポーンは進めないのので a5 のルークは横に利かず、苦しい形になってしまいます。

26.Ne5 c5 27.Kg1 Qe7 28.dxc5
bxc5 29.Rcd1 Bb5 30.Qf3 c4



a5 のルークが使えずに負けると目も当てられないので気合で突きます。d5 を狙われておりポーンダウンは避けられないので、仕方ないです。

31.Nxc4 Bxc4 32.Bxc4 Rb8
33.Bxd5 Rxd5 34.Nc3 Rxd2
35.Rxd2 Qe8 36.Qd1 Bxc3
37.bxc3

1 ポーンダウンながら、a3,c3 にプレッシャーをかけやすく、白も f がダブルポーンになっていることから、これはドローが取れる形だと思いました。

ただここでどう c3 のポーンに当てるか悩みました。

37... Qc8

単に 37...Qc6 とすべきかを考えていました。

38.Rd3 Qc4 39.Rd8+ Rxd8
40.Qxd8+ Kh7



41.Qd4

このときにクイーンが c6 にいると Qb5~Qb3 の 2 手が必要になるので、c4 に置きました。しかし、ここは 41.Qf8 がありました。41...Qxc3 42.Qxf7 Kh6 43.Qxe6 Qxa3 44.f5 はメイトを狙われて負けです。41...f5 と受けるしかありませんが、それだと e6 が弱くなる上にクイーンで横からチェックがかかる形なので白の選択肢が多く、苦しいです。クイーンサイドしか見ていなかったのが盲点になっていました。40...Kh7 と上がった瞬間にこの手に気付きました。

41... Qb3 42.Qc5 Kg8 43.Kg2
Kg7 44.c4 Kg8 45.Kh2



45... Qc3

45...Qf3?! と指そうとしましたが、それは 46.Qe3 とぶつけられて c ポーンを伸ばされてしまいます。クイーンを持った時に気づき、改めてどこに配置するか考えました。a3 と c4 に当てる Qc3 が正解で、白の進展は阻止できています。

46.Kg2 Qb3 47.Qc8+ Kg7
48.Qc5 Kg8 49.Qc8+ Kg7 50.c5
Qxa3 51.c6 Qc3 52.Qd7 a3
53.c7 a2 54.c8=Q Qxc8 55.Qxc8
a1=Q 1/2-1/2

ポーンダウンを解消し、ドローに持ち込みました。終始苦しい試合で、難しくなった瞬間に悪手を指して絶望する展開でしたので、ほっとしました。

優勝の行方は南條さんとのタイブレーク勝負ですので、試合後は祈っていました(笑)

今大会は他の参加者と Airbnb で民泊し、共同生活をしていました。非常に充実した時間を過ごすことができ、それがチェスにも良い影響をもたらしたと思います！

初の神戸での FIDE 大会ということで大変な面もあったかと思いますが、主催の日本チェス連盟様、大阪阿倍野チェスクラブ様をはじめ運営の皆様に感謝を申し上げます。



参加者自戦記
小野大志

どうもクソシヨーギプレイヤーです。

…すみません間違えました、いつもの癖でして。

兵庫県加古川市在住の小野といいます。昨年までは将棋と並行して楽しむ程度でしたが、今年はチェスだ！と突然思い立って真面目に大会に出るようになりました。運良く出場できた全日本選手権が思いの外楽しかったので、ちょうど近場の神戸で開かれるジャパンチェスクラシックにも迷わず参加。以下はその振り返りです。

～1週間前～

どうしても自分がやりたかったので本番と同じタイムスケジュールの90min+30sec対局会を敢行。

事前の申し込みはまばらでしたが当日飛び入りで色々な方にお越しいただき、形を変えながらも有意義な直前練習になりました。

ご参加いただいた皆様ありがとうございました。[*1]

～1日目～

レーティング 1711、41位からのスタート。ちょうど真ん中ぐらいやな、とは思っていましたが。

【1R vs Tu さん (2420) 白】

ペアリング表見たらいきなり自分の名前が。爆笑。とはいえこれだけの格上[*2]と当たることができると減多にない機会なので



普段通りの形でぶつかることにしました。

1.d4 に 1...Nf6 だったので今日も今日とて Trompowsky。

2.Bg5



もちろんこんな戦法が優秀なわけはないのですが、1...Nf6 という手を直接咎められる可能性が僅かにでもあるのは盤上でこの一手しかないのです。多分。

加えて僕自身がまだチェスそのものの理解に乏しいため、こういった駒交換がされて形の崩れる戦型を選んでいるという面も少しあります。

いかに弱者なりの戦い方をするかというのがどの競技にも共通した個人的なテーマの一つ。

この後比較的な穏やかな進行になり、戦いが本格的に始まって迎えたのが図の局面。

19...f5



取れるポーンなので取るや取らざるやの2択。僕は取らずに違う手を指したのですが、これが大ハズレで exf6 と取るべきでした。

いや、というよりもこれ自体はどう見たって取る一手で、取って何かあってもその場で対処・それが出来なければ元が悪いんだから諦めましょうというのがあるべき姿。

やってる間もその認識はあったのですが、なまじっか時間があるために数手後の展開を確認して自信が持てなくなり、結果踏み外してしまうという割と最悪のパターンに入ってしまった。

実際のところ取った後最善を尽くしても互角で、かつ最善という手順自体も自身が指せるかというと厳しいものではあるのですが、それでもやはり最初の一步目が間違ってしまうとどうにもならないのです。

ということでここを誤ったことでいきなり差がついて以下 10 手ほどで負け。

全体的にそこそこ頑張った気はしますが、なるほどこれが彼我の力の差かという感じでした。

レペゼン和歌山さしどきの草下さんが来られていたので赤羽クラブの山口くんら数人でご飯に行って 1 日目が終了。

～2日目～

ということでここからが真の大会スタート。

【2R vs Abe さん (UR) 黒】

やったー e4 だー！ Petroff だー！

2...Nf6



だって先の全日本では指した 8 局全てが 1.d4 だったんですよ。絶対出るやろと思って準備してたのにそんなある？ これですよやく報われ…

3. Nc3

Four Knights やん！ Petroff じゃない！ いやどう考えても僕の早とちりだがそれはそれとして！

こうして切ない気持ちのゴミ捨て場と化した盤上でガチャガチャやること十数手、気付けばえらい上手いことって優勢になってました。

15...f4



以下は幾許もなく勝ちとなり、まずは第一歩を踏み出すことに成功。

いましたが、まさかたったの 2 か月後に持ち時間・先後ともに全く同じ条件でやることになるとは夢にも思いませんでした。

前回と同じくこれまた Trompowsky で挑み図の局面。

6.e4



実はこれ直前の対局会で指した Yokota さんとの実戦と全く同じ進行。その時は結果こそドローも内容は確かに手応えを感じるもので、それがまさかたったの 1 週間後に再び目の前に現れるとはこれまた夢にも思いませんでした…

まあ実際はそんなことをしみじみ思う余裕もないわけですが、前局でどんなことを考えていたかを思い出しつつ指し進めていき迎えたのが次の図。

17.Nd5



【3R vs Tamura さん (1929) 白】

全日本で当たった Tamura さんと再戦。

いや確かにその時あまりに大差でやられちゃったので「またどこかで当たってみたいなあ」とは思



どうやらこの形は Nd5 と跳ね出すのが急所 [*3] のようでどこかで狙ってはいたのですが、17手目にしてついに実現。

対して 17...Kd8 だったので 18.Nxe7 と天使の跳躍が決まって駒得確定となりました。

以下ものすごく上手く粘られてかなり混乱しましたが、最後は時間切迫も相まって勝ち。

舞台・内容・結果、全てが「まさか」という一言に集約される対局でした。

終わった後は馴染みの面々で神戸元町の中華〜ジャズ喫茶という流れ。

行っても一人でしか入ることのないジャズ喫茶に大人数でいたのがとても不思議な気分でした。

〜3日目〜

この時点ではパフォーマンスレート 2000 超えてたそうです。瞬間最大風速ですが。

【4R vs Okuno さん (1889) 黒】

お名前は拝見したことのある Okuno さんですが、何を指されるのかは全く知らないで結局は普段通り指す感じに。

最序盤から少し不穏な雰囲気だったので何やられるのかなーと思ってたら、とうとう 1 ミリも知らない外し方をされて長考に沈むことに。

3.g3



さてどうしたものかなあ、などと思いながら案出しをしたところ 4 つのプランが出ました。

今改めて評価すると、1. 本筋 2. 無難 3. やや奇策 4. 大ハズレ という感じになりますが、果たして僕が選んだのは 4 (3...d6)

普通に考えればまるっきり損な形で選ぶ要素が全くないはずなんですけど、やってる間は何故か面白そうに見えちゃったんですよえ...

その結果数手後に迎えた局面が次の図。

7.exd5



指された 2 秒後の感想は「おー、死んでる」でした。

この後は例によって泣きながら頑張ることになり King が e7 ~

f6 ~ g6 とわけわからんところまで逃げ込みましたが、さすがにその程度で許してもらえない訳がなく普通に全然駄目。

チェスの基本的なところが理解できていないことを改めて突き付けられた格好となりました。

【5R vs Yonemitsu さん (2073) 白】

負けた後によりレートの高い方とやることに。厳しい世の中だ。

1. d4 に 1...d5 だったので今度は Trompowsky ではない。お互い微妙に力戦志向なのかあるいは相手だけ研究範囲なのか、早々に見たこともない局面に。

そうしてよくわからないまま手探りで駒組みを進めた結果たどり着いたのが図の局面。

10...Qb6



ここは早くもまずい気がしていました。というのも向こうとこちらで「とりあえず」で指せる手の数があまりに違うからで、すなわちこちらだけ一方的に方針を立てるのが難しい状況になりつつあるからです。[*4]

結局この後どんどんこちらの駒は自陣内に押し込まれ、戦い



になってからは見落としで駒が落ち、僅かな狙いも手堅く消され、何一つとして希望のない局面が延々と続くわけですが、前局に続きあまりに内容のないチェスであったため、自分の気持ちと折り合いをつけるためにもただただ投げずに指し続けることにしました。

こうして生まれた投了図がこちら。

48...Be4



ペンペン草も生えないというのはこういうのを指すんですね、はい。

夜は前日の面々に加えて馴染みの地元勢も加わり、10名を超す大所帯で中華街へ。

食事中にペアリングが発表され、さっきまで一緒に入る店を探していた Yokota さんと当たること。「もっと飲まなくていいんですか笑」「てか今まであなたにどんだけ負けてると思ってるんよ笑」という会話がなされたのかなさなかったとか。

～4日目～

さすがにここまでくると結構しんどい。

【6R vs Yokota さん (1541) 黒】

いやあ、こんなところで当たってしまいましたねえ。

普段兵庫・大阪のクラブで一緒にすること多く、また我が高砂チェスクラブにもよくお越しいただいており、更には全日本でも互いに苦労したこともあったりしたので、こういう最後のシビアナタイミングではやりたくはなかった。

お互い何をやるのかは知っているのでも何も考えずに Petroff に。

7...Bd6



普段ならこれだけ縦に駒が並んでいる [*6] のを見て「いや～壮観だなあ」とか適当なことを言ったりするわけですが、さすがにそういう気分でもなく。

そしてそんな調子なので指し手も冴えるわけがなくて雑な手を指してあっという間に悪くなり、今度はそういう自分に嫌気が差して考えがまとまらなくなる始末。

そんなどうしようもない中で唯一よく指せた、あるいは指せてしまったのが図の局面の 14...Qf7。



重くなったところを軽くかわすのは基本通りではあるのですが、それまで全然駄目だと思っていたのがこの手で少なくとも難しくなっているの気付き、何がどうなっているのかさっぱり分からなくなりました。

結果的にはそこから10手ほど進んだところで突然相手の King が受からない形になって勝ちになったのですが、後日調べたところ厳密に言えばこの間に何度も形勢がかなり大きく揺れ動き入れ替わっていました。

「客観的な」最善を尽くすことが出来れば双方に勝つチャンスはいくらでもあった。しかし盤上が善悪を超えた二人だけの世界と化すことは時として起こることであり、そうであった以上は些細なことではかないのです。[*7]



【7R vs Kitagami さん (1851) 白】

このカードも全日本からの再戦。ただその時はこちらが黒でした。今度は白なので三度 Trompowsky。

駒がぶつかる前から模様が良くなり、頃合いは良しと自信满满に 19.Qg5。対して 19...Kh8 と端に逃げられて図の局面。



指された直後の僕「ふむ。」
10 秒後の僕「ふーん？」
20 秒後の僕「ふむう。。」

ようやく気付いた僕「無いねえ。」

そう、寄せが全くないのである。しかもこの時点で残り時間が 30 分対 70 分あるいはそれ以上の時間差がついており、寄せはおろか時間までも無く、またしても泣きながら頑張ることとなってしまった。

その後なんとかドローで許してもらえるかというところまでこぎつけて、更に進んで図の局面。

41.Ka4



ここで 41...Nxh6 と取ったのが敗着で、42.Qf6 ~ 43.Rg5 で Queen を切らざるを得なくなり以下勝ち。

黒は何度かドローに出来たところを颯爽と勝ちに来た結果こうなったわけですが意外と勝ちにするのは難しかったようで、こればかりは僥倖としか言いようがありません。

最後の最後に今大会中最も競って白熱した対局になりました。

～大会を終えて～

こうして終わってみると 4.0/7P でパフォーマンスレートも 1912 というまさに望外の結果に。

先の全日本では内容に手応えがあるも結果は全く出ずという感じだったので、いい具合にステップアップできた感触があります。

また今大会が地方開催第一弾となりましたが、首都圏に限らず日本全体にチェスを広げていくというチェス連盟としての方針の表れ

だと捉えています。

地方チェスクラブの方々とは仲良くさせていただいており、また高砂チェスクラブという地方クラブの立ち上げ・運営に参画している者としては、こうした前向きな取り組みが積み重なることでよりチェスの取り巻く環境が良くなるものと考えており、今後もそういった流れが続くことを期待しています。

最後になりますが、大会運営・スタッフの皆様、選手の皆様、大会期間中ご一緒させていただいた皆様、そして日頃から数多くの助言を頂いている山口くん、Kanapov 先生に厚く御礼申し上げます。

それではまた。

[*1] 運営にご協力いただいた田中さんもありかとうございました。いつも本当にお世話になっています。

[*2] ナショナルレートだと 1149 差。

[*3] これもやはり前述の Yokota 戦で押さえていたポイント。ちなみに Engine は局面図の次の手ぐらいでもう Nd5 と跳ねちゃっていいよ！って言って、そういうものなのか〜って感じでした。

[*4] こういうのは何に起因するのだろうか？センスと言ってしまえばそれまでだが。

[*5] よくよく考えたらこれが長い時間でちゃんと指した最初の Petroff だったわけだけど、やってる間はそんなこと考える余裕など全くなかった。

[*6] Carlsen - Nepo の世界選手権でも似たようなのがありましたが、あれは本当に駒柱になったんですね。それを見て面白いなと思ったのがこの戦型をやり始めたきっかけ。

[*7] 後から棋譜だけ見れば「なんだこいつら弱いな」という感想しか出てこないものになるが、そんなもん。



Tournament Report

Poggenpoel Flipi

The playing hall has gone from quiet to silent as more and more players have finished their games and left the room to socialize and analyze outside.

Some of them came past our board on the way out and now, with minutes left on the clock for us both, a small group of onlookers have gathered to see how it will end. It's my move. Somehow I've gotten into a winning position. Can't think too long though. I pick up my remaining knight, a piece that has travelled the entire board at this point, and place it on c5 behind my king. As I press the clock my opponent reaches for it as well and offers me her hand. I won! 4/7 in my first FIDE rated event! The realization comes in a rush and soon I will be all smiles.

Coming into this event I had requested a bye for Round 1 on Friday and only joined from Round 2 on Saturday. As so often happens, trusting Google Maps blindly was not the best way to get to the KIITO Exhibition Centre where the event was held, but thankfully it turned out to be an easily walkable distance from Kobe's main station in Sannomiya. Another unknown for me was the use of Peatix to manage tickets for the event, but this ended up being quite smooth and I was checked-in and looking for my board and friends soon enough. The social aspect of OTB chess is definitely worth more than a simple mention, providing a great opportunity to engage with new and old acquaintances and maybe making a few new friends too. In terms of the playing hall, the boards were split equally across two playing halls and during the remaining 6 rounds I would start and revisit the

higher boardroom, but spend most of my time in the lower boardroom (as I came to think of it).

Although I experienced every second of it at the time, the path to my first ever FIDE rating seems a lot shorter in hindsight:

Friday: I did not play in Round 1, but an honorary mention must go to the live-stream which allowed me to catch a fellow Osaka player kicking off her tournament on board 3 against the eventual winner of the tournament. She even got a winning advantage during the game, but unfortunately could not hold it till the end.

Saturday: In Round 2 I opened poorly with black in a Rossolimo, but found a poisoned pawn trap which my opponent walked into (likely being lulled by my poor play). Unfortunately I then continued



making weakening moves and ended up scrambling for a draw by sacrificing everything in sight. In Round 3 I tried the Sämisch as white against the King's Indian Defense, again making some poor decisions in the early game however and this time my opponent did not give me any second chances, as things went from bad to worse until I missed a final draw'sh chance in the endgame and got crushed.

Sunday: Round 4 saw me on the black side of a London, where some irregular move-ordering helped me bamboozle my opponent into dropping some material and giving me a winning advantage. In Round 5 I had white in a full-circle transposition from a Slav to a Semi-Slav and finally a Queen's Gambit Declined. Although the engine finds it in milliseconds, 19.0-0! felt like the bravest move I have ever played. This game was my first true bladder-test as well, as we progressed into the 4 hour-zone, continuing play on minutes and seconds, before my opponent flagged and I rushed off to the bathroom.

Monday: Our last day started rough for me, where as white against a King's Indian I again trotted out the Sämisch for another unsuccessful try. I spent slightly more than 30 minutes on 19.f4? and followed it up with the even more weakening 21.e5??, which landed me in a losing endgame once all the trades were done. It is probably for the best that Friedrich Sämisch could not see what I was doing to his opening.



And so we arrived at Round 7, where I would go up against a Woman Candidate Master (WCM) for all the marbles and a chance at a plus score. Multi-day tournaments definitely take their toll alongside the knowledge of it being the final round and you could see the impact on many of our faces when the clocks started. As black in a Bogó-Indian I played somewhat on auto-pilot at first, for the third time landing myself in a tricky situation when I missed the required pawn move and gave white's knight a the d4 square. Perhaps as a consequence of our energy levels a lot of pieces came off the board in the following few minutes and by move 20 I thought I had white on the backfoot, having to keep two isolated pawns safe against my pawn majority with only rooks and knights left. The game remained equal for another 20 moves however, until white miss-stepped slightly and gave me a chance to take the initiative with my travel-hungry knight and slowly moving king. The game was far from over but over the following 30 moves I was able to realise my advantage and finally reach 72..Nc5, where my

opponent conceded the game.

The Kobe Chess Classic was an exhilarating, frustrating and joyous weekend. A 7 round FIDE rated event with 80 players, some of whom came from overseas to participate, is not a daily occurrence here in Kansai and the local players were quick to grab their tickets when registrations opened up. To my shame I wasn't even completely sure I would attend until it was almost sold out, but luckily I did and I have been strongly reminded that a large OTB tournament is one of the peak experiences that this great game offers. While there are various other events taking place on the Tokyo side the rest of the year, we will all be eagerly awaiting any announcement of more events to come here in Kansai. At which point, I hope to see you there!

(I wonder if others sit on the FIDE website and refresh every few minutes, hoping to see their brand new FIDE rating displayed? Not that I am doing that..)

Tournament Report 大会レポート

全日本ラピッドチェス 選手権 2023

神田大吾

2023年6月の10(土)11(日)の2日間、きゅりあん(品川区総合区民会館)を会場として全日本ラピッドチェス選手権2023が開催されました。持ち時間は15分+10秒/手です。FIDEラピッド公式戦であり国内ラピッド公式戦でもある本格的な9Rスイス式の大会に63名が参戦しました。

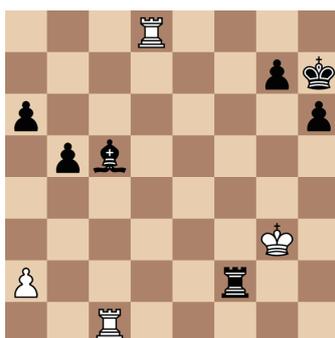
配信デビュー(1R~4R)

初日の4試合は3つの配信ボードがランダムに選ばれ、例えば土曜の午後1時開始の第1Rでは5番、6番、10番ボードのゲームが中継されました。続く第2R、第3R、第4Rも同様で、いつもの上位3ボードとは異なり、多士済々の顔ぶれが映し出されました。嬉し、恥ずかし、配信デビューの方も多かったようですが、ゲームはどれも見ごたえがありました。例えばこちら、第1Rで10番の森安悠一郎-古谷昌洋です。



互いにルーク2個ずつ持ちつつ、白がビショップとナイトとポーンが1個に対し、黒がビショップとポーンが5個。駒割りはほぼ互角で、形勢不明の激戦です。そしてここからもまた凄かった。

1.Nxc5 Rf2+ 2.Kg3 Bxc5 3.Bh7+ Kxh7 4.Rxd8



ひとしきり駒を取り合い、黒の手番で、しかしc5のビショップが当たっている。下手に逃げると、f2のルークが取られる。手に汗握るぎりぎりの攻防が繰り広げられ、最後はレーティング上位の古谷が貫録を見せて勝ち切りましたが、大会の幕開きを飾る大熱戦となりました。

後から振り返れば、古谷はオープン準優勝、森安はU1600で3位入賞。さもありがた、棋力が充

実のお二人の対戦でした。

初日の4試合を終えて、Tran Thanh Tuと山田弘平が4連勝。この二人を3.5ポイントの長瀧航太、松山紘也、古谷が追いかける展開となりました。

眼福(5R~9R)

将棋では「この対局を見ることができてとても嬉しい」と称賛する表現の一つに「眼福」(*)を得る、があります。その言葉を思い出したのが2日目の第5R、Tu-山田(弘)の全勝対決でした。5R Tu-山田(弘)



終盤、互いに1手10秒で指し続けているこの局面で、Tuが決め手を放ちます。

1.Rg7! Nxg7 2.h7!!

*眼福(がんぷく):ほかでは見られないすぐれた物を見て、楽しい思いをすること。【『三省堂新明解国語辞典』第八版より】

配信解説の塩見亮と中原鑑が感嘆しきりでした。虎の子のルークをわざわざナイトの効きに差し出した上、2.hxg7?? も 2.Kxg7?? も 2...Bf6 で黒の逆転勝ちとなります。薄氷をさらりと渡り切った Tu の腕の冴え。眼福を得た一局です。

Tu は続く 6R と 7R も勝ち、ただ一人全勝の 7 ポイントで独走します。このままゴールかと思われた矢先の第 8R、後々まで語り継がれるであろう名勝負が生まれました。

8R Tu- 小林厚彦



駒が複雑にぶつかり合ったこの局面から、まさか、たった 7 手で終わるとは！

1...f3 2.g3 Nxd5 3.cxd5 Nf4 !
4.gxf4 exf4 5.Kh2 Re5 !!

黒から 5...Bxa1 や 5...Rxb4 と

駒を取れるのに見向きもせず、小林は白の本丸に殺到します。

6.Bc3 Rh5 7.Bxg7 Qg5 !



ここで Tu は無念のリザイン。クイーンが g2 のチェックメイトを見せ、8.Rg1 と受けさせてから 8...Rxh3+ 9.Kxh3 Qh5 のチェックメイト！ こちらもまさに眼福を得た素晴らしいゲームでした。昨年の Chennai オリンピアード日本代表のお二人に大きな拍手を送ります。

そして 15 時 50 分に始まった最終戦、第 9R の上位 3 ボードはこうなりました。

Jenny Emile 0-1 Tu

古谷 1-0 小林

東野徹男 0-1 山田 (弘)

Tu が新鋭を一蹴して 8 ポイントに到達する一方、古谷が小林を

倒し順位逆転で 2 位、強豪に競り勝った山田 (弘) が 3 位に入りました。

こうして多くの話題を生みながら、全日本ラピッドチェス選手権 2023 は盛会の内に閉幕しました。通常の長い持ち時間の大会とは異なる、新たな楽しみを満喫できる早指しの大会、次はあなたもぜひ、どうぞ！

入賞者一覧

◆オープン

1 位 CM Tran Thanh Tu 8.0/9P

2 位 古谷昌洋 7.5

3 位 FM 山田弘平 7.0

◆U1600

1 位 山上紘生 5.5

2 位 山本智央 5.0

3 位 森安悠一郎 5.0

チェス・トーナメント 第11回九州チーム選手権 in伊万里レポート

伊万里チェスクラブ 事務局長
末次健太郎

伊万里チェスクラブが主催している大会のうち、団体戦で行われる「チェス・トーナメント 九州チーム選手権 in 伊万里」が昨年第10回を迎え、今年度11回目の大会を計画しました。大会を長く続けることは大事なことでありますが、10年の節目を迎え、参加者がより楽しめるような工夫が必要ではないかと考えていました。ところが、新たな形のチェス大会を模索していたものの、なかなか良いアイデアは出てきませんでした。それでも準備を始める時期に近づいてきたので、まずは案内用のチラシを会員手作りのものから、隣町の有田工業高校デザイン科に通う市内在住の高校生に依頼しました。海外のチェス大会を参考にして作成するようお願いすると、斬新なデザインのチラシを仕上げてくれて、まず一つ新しい形を見せることができました。

(下図)

チェス・トーナメント
第11回九州チーム選手権大会 in伊万里

令和5年
6月18日(日)

会場
大坪コミュニティセンター

受付 10時00分～
開会式 10時30分～
競技開始 11時00分～

～頭脳と頭脳の真剣勝負～

申込先・問い合わせ先
〒948-0002 佐賀県伊万里市大坪町甲2385-2-5
伊万里チェスクラブ (担当:末次健太郎)
TEL 090-8423-3225
Eメール: main@iwari-cs.jp

主催 伊万里チェスクラブ (協賛:佐賀県教育委員会)
後援 伊万里ケーブルテレビジョン(株)
協賛 伊万里市教育委員会、有田町教育委員会、佐賀県教育委員会、佐賀新聞社、日本チェス連盟

協賛 伊万里ケーブルテレビジョン(株)
協賛 伊万里市教育委員会、有田町教育委員会、佐賀県教育委員会、佐賀新聞社、日本チェス連盟



次に参加者への案内ですが、これまでの大会に出場してくれているチームの代表者へ連絡を入れるだけでなく、日本チェス連盟のサイトにも案内を掲載してもらいました。また、TwitterやInstagramなどのSNSも利用して広く宣伝していきました。熊本大学チェスサークルが最近活動を始めた、とTwitterで情報を発信していましたので、いきなりDMを送って大会を案内したところ、すぐに返事が返ってきました。初めてのコンタクトでしたが、案内を読んで前向きに大会参加を検討しているという嬉しい内容でした。さらに、東京から小学生が参加希望というメールが届き、大変驚きました。別の会場と間違えているのではないかと心配していたのですが、実はこの小学生、6月に行われたカデッツとラピッドの世界選手権に出場していた古瀬瑞希さんでした。海外の大会に出場したことを聞き、東京から九州までの移動なら何ら問題ないだろうと会員一同、安心しました。

最終的に申し込みがあったのは過去最大の8チームです。福岡、久留米、熊本、長崎のクラブやチー

ムに加えて、熊本大学チェスサークルからは2チームが参加。それに当クラブと、古瀬さんを含めた混成チームを作りました。参加者は小学生の古瀬さんを始め、中学生、大学生などの学生から、60代～70代のシニア世代まで幅広く、初心者レベルから熟練者まで揃いました。また、熊本大学チェスサークルには、メンバーにアジア、アフリカ、ヨーロッパからの留学生が入っており、対局の際には国際色豊かな雰囲気となりました。

対戦する度にテーブルを変わり、異なるチェス駒を使用して対局を楽しめるように工夫しました。それぞれ4回戦まで対局して、結果は熊本が4戦全勝と、2年連続優勝を飾りました。準優勝は福岡チェスクラブ、第3位に入ったのは久留米チェス同好会で、入賞は全て前回と同じチームとなりました。

優勝	熊本ポーンパラダイス
準優勝	福岡チェスクラブ
第3位	久留米チェス同好会
第4位	長崎居住地チェスサークル
第5位	伊万里混成チーム
第6位	熊本大学チェスサークルA

夏のチェスフェスティバル 2023

2023年6月25日(日)、東京品川区きゅりあんにおいて、4Rスイス、30分+15秒/手の国内公式戦「夏のチェスフェスティバル 2023」が開かれました。参加者は66名でした。

この大会の特徴は「レーティングの近い選手同士が当たること」です。参加者はオープン、U1500、U1200の3つに分かれ、グループごとにペアリングされました。強すぎる相手とは対戦しない安心感からか、オープン参加者が12名と少なめだった一方、U1500が29名、U1200が25名といずれも大人数になりました。参加者には子供も多く、フェスティバルの名に恥じない、賑やかで楽しい大会となりました。

入賞者

オープン

1位 黒田裕之介 4.0/4P

2位 山田貴彦 3.0

3位 松永冬馬 2.5

U1500

1位 小川太郎 4.0/4P

2位 竹内惇 4.0

3位 大谷拓也 3.0

U1200

1位 野田龍 4.0/4P

2位 Shambhava Sood 3.5

3位 古瀬瑞季 3.0



第18回札幌サマーチェス大会

札幌チェスクラブ 西森敏之

2023年7月16日(日)と17日(月)の2日間に、札幌市の「かでる27」で開催された「第18回札幌サマーチェス大会」について報告します。

この大会は、2004年8月に第1回目が行われ、参加者は6名で、優勝は小学生のAnish Giri君(現在はGM)でした。2010年代には函館の子供達を含めて10数名の参加者が集まり大盛況でしたが、コロナ以後初めての今回は5ラウンドの大会が成立するギリギリの6名でした。

この大会では、最近では杉本さんがスイスマネージャーを使って組み合わせなど運営を行っていたのですが、今回は杉本さんが不在の為、参加者の中でコンピュータに詳しい方をお願いしました。3ラウンドまでは無事に進んだのですが、4ラウンド目にスイスマネー

ジャーが「適切な組み合わせは不可能だ」と宣言して続行できなくなりました。「6名で5ラウンドのようなときは、総当たり表を使うものだ」と昔聞いたことがあったような気もしたのですが、何となくスイスマネージャーで始めたことが失敗だったわけです。起こったことは仕方ないので、同じ組合せができることは承知の上で、「上位から、同点の選手どうしを組み合わせる」という原則を立てて、残りのラウンドを行いました。

この大会の結果は、4点の川村卓人さんが優勝で、タイブレークは行わないので、準優勝は3点の吉井優紀彦さん、西森敏之、中村充さんの3人でした。その他の2名はAクラスとして表彰されました(写真)。

今回は組み合わせのトラブルがありました。昼食は参加者全員で2階のレストランに行くなど、楽しく大会を終えることが出来ました。次回には参加者が増えて組合せが楽になれば良いなど祈っています。

21st ASEAN+ Age-Group Chess Championships 2023

長瀧航太

こんにちは。長瀧航太です。先日参加した21st ASEAN+ Age-Group Chess Championships 2023 について書かせていただきます。大会の概略については一緒に参加した岡部くんの記事にありますので、そちらを参考にしてください。

この大会は自分にとって初めての海外大会でした。高校生の頃から海外大会には興味があり、2020年2月に中国の大会に参加する予定だったのですが、コロナの影響で大会が中止になってしまったため、ようやく海外大会への参加が叶ったという感じでした。

海外大会は参加者の殆どが知らない人で、日本語を話す人はどこにもいないので、いつもの日本の大会とはかなり違う雰囲気だと感じました。最も心配していた言語面の問題は、英語が全然できないにも関わらずなんとかなったので良かったです。ただ、肝心の対局の方は思うようにいかないことが多く、なかなか苦しかったです。

1Rは時間切迫のなか相手にミスが出て、IM相手に優位なポジションを築けたもののドロー。2RもCM相手に優勢になるもドロー。ここまではそれなりに調子が良かったのですが、3Rはレート300下に負け。相手はレート



以上に強かったので仕方ないですが、精神的なダメージを受けました。4Rは自分が白で次のポジション（白番）になりました。



そんなに簡単に勝てるポジションではないですが、ここでクイーンサイドのポーンを交換して勝ると誤解していたのはエンドゲーム力に大きな問題があると思いました。

自分が参加していたU20部門は参加者が15人しかいなかったため5Rは強制Byeとなり、6Rは自分が黒で次のポジション（黒番）になりました。



ここで勝ちの手を20分かけて考えたものの見つけられず、相手の脅威であるdポーンを消す狙いのBa2を指しましたが、白は

Bb4とし、お互いのパスポーンが消えドローに。勝ちの手が見つけられなくても、例えばa2として相手にプレッシャーを与えるような手が指せなかったことを後悔しています。

海外大会での失敗はいつもの日本の大会での失敗よりも精神的なダメージが大きく、7,8Rはその勢いのまま負けてしまいました。ただ悔しさが大きい分、失敗から見つかった課題にいつも以上に本気で向き合おうという気持ちになりました。9Rは棋力差がある相手に勝ち、最終ラウンドでようやく白星をあげることができました。

こんなに辛い大会は初めてでしたが、それでも初めての海外大会はすごく楽しく良い経験になりました。3Rで負けたフィリピンの子は日本の文化に興味があり、対局前後に何度か話しかけてくれて、仲良くなることができました。試合のない日には観光をし、マンガを食べたり、寺院に行ったのも良い思い出になりました。今回の大会の反省を生かして、今後も積極的に海外大会に参加して良いゲームを指したいと思います。

21st ASEAN+ Age-Group Chess Championships 2023

岡部悠真



今回は6月17日から26日にかけてタイのバンコクで開催された21st ASEAN+ Age-Group Chess Championships 2023に参加してきました。スタンダードで1位から3位になったプレイヤーはマスターのタイトルを得ることができ、それを目標に参加しました。U16は23人、総勢328人が参加していて、ベトナム人が特に多く全体の半数ほどを占めていました。昨年の11月にフィリピンでAsian Junior Championshipに出場したのですが、そこで知り合った人たちとも再会できて、とても嬉しかったです。

この大会は90分+30秒のスタンダードのトーナメントに加え、ラピッド、ブリッツのトーナメントも行われたのですが、それぞれ持ち時間は25分、5分でインクリメントなしの切れ負け形式であったことが特徴的でした。OTBの対局では手を指して時計を押すまで時間がかかるので、オンラインブリッツなどと比べて時間がとても速くなくなっていくように感じ、実際に持ち時間の影響で事件が起きました。

ラピッドのR5、暫定順位は3位で入賞に関わって来るとも重

要なラウンドで、激しいミドルゲームの後、45手目に僕が黒番でこの局面になりました。



僕が1ポーンアップしていて、勝ちかドローで負けはないポジションですが、持ち時間が相手は12分あるのに対して16秒！しか残っていませんでした。この後はなすすべもなく時間切れで負けてしまったのですが、今回のような明らかにドロー以上の局面、例えばルーク対ルークなどになった時に時間が劣勢なプレイヤーがどのようにドローをクレームすればいいのか疑問に思いました。今回のラピッドは棋譜を書くわけでもなかったため、50手ルールや同形三複を確認することも簡単にはできません。対局後にアービターに確認してみると、この場合は一度時計を止めて、アービターに棋譜とペンをもらい自分で手を書く必要があると教えてもらいまし

た。前にもパナマで同形三複の時にドローのクレームをする手順を知らずに負けてしまったことがあり、FIDE公式戦のルールはかなり複雑であることを感じさせられました。悔しいですが今回新たにルールを知ることができて良かったです。

最終結果はスタンダードが5勝4敗で11位、ラピッドは13位、ブリッツは14位でした。なんと上位9人の内8人はベトナム人で、ベトナムのジュニアとレベルの違いを感じました。スタート順位は4位だったのでかなり残念でしたが、ラピッドではリスト1位のベトナム人のFMに勝つことができ、手ごたえを感じることはできました。

去年の6月にパナマで初めて海外大会に参加してから、今回でもう4回目になりました。この一年で南アメリカ、東南アジア、ヨーロッパと世界中様々な場所に行きましたが、どこに行ってもチェスを通して沢山のひとと知り合い、仲良くなることができました。チェスは言葉の壁を越えて、どんな人とも指すことができ、競い合えます。今後もっと強くなれるように努力していきたいです。

山田 弘平 さん

チェスは勉強すればするほど面白い この体験を多くの人に

やまだ こうへい

1988年生まれ。FIDEマスター/FIDEインストラクター。2010年アジア大会、2016年オリンピック、2018年オリンピックに日本代表として出場。国内大会の優勝経験多数。日本初のスポンサードプレイヤーとして活動する一方、オンライン講座で普及活動も行っている。



本誌では「名プレイヤーから学ぼう」の連載を担当し、ご存じの読者も多い山田弘平さん。昨年のアジア大会代表選考会では6ポイントの単独首位で代表内定となった。これまでのチェスとの関わりから、9月に控えたアジア大会まで、多くを語っていただいた。

チェスと出会ったきっかけについて教えてください。

チェスと出会ったきっかけは、父親からルールを教えてもらったことです。子供の頃からずっと家族で指していました。そのあと函館の地元のトーナメントとか、北海道選手権とか、そういった自分が参加できる近場の大会から参加していきました。中学高校ぐらいの時にぼちぼち本格的な大会に出るようになっていって、大学ぐら

いの時から東京でトーナメントにたくさん出るようになったという感じですね。

チェスに対する最初の印象は覚えていますか？

もう覚えたのがかなり子供の時だったので、正直印象っていうのはそんなにないです。やはり自分にとってはすごく身近なゲームでしたし、本当にやって楽しいゲームです。今までの人生の中でもずっと自分と一緒にあったもので、おそらくこれからも一緒にあるゲームなんじゃないかなと思いますね。

どんなところがチェスの魅力だと思いますか？

自分にとってはすごくロジカルなゲームっていう印象があるので

すね。色々戦略だとか戦術だとか、自分のそういった知識をきちんと組み合わせる答えを出すゲームっていう印象があるんですけど、もちろんそれだけではなくて、時としては想像力も必要だったりとか、あとは自分が選ぶべき手をどのように選ぶかっていう決断力も必要だと思っていて、すごく人間の思考の総合力が問われるゲームなんじゃないかなと考えています。そういう意味で、人間にとってめちゃくちゃいい難易度のゲームだと思いますし、すごく極められそうで極められないっていう面白さがやっぱりチェスにはあるんじゃないかなと思っています。

普段のトレーニングでは、どんなことをされていますか？

自分のトレーニングの中心にな

っているのは、やはり問題を解くことだったりとか、強い人のゲームを並べて調べたりして、定跡の研究をすることです。あとはそれこそチェスエンジンですね。今、チェスエンジンがすごく発達しているので、それを使って最新の定跡を研究していますね。もちろんそれ以外にもたくさんのをやらなきゃいけないって、本を読んで知識を蓄えたりとか、あとは自分の持っている知識の再整理とか再構築とか、本番でいかに自分の能力を引き出せるかっていうところに着目しながら、最近はトレーニングをしている気がしますね。

決断力とか、そういったところを鍛えるっていうのが課題なのかなと思っています。最近の実戦を想定して、どういった局面でどういうふうな決断ができるのかっていうのを意識しながら、問題を解くでも実戦をやるでも取り組んでいるかなと思います。

山田さんは日本を代表するプレイヤーだと思いますが、これまでに大変だと思ったことや、挫折を感じたことはありましたか？

やはり挫折を感じるこの方が、チェスの自分のキャリアの中では多かったと思いますね。例えば自分が勉強していたことが試合の中でうまく出せなかったっていう時もそうですし、努力してもすぐに結果が出る競技ではないので、自分なりに凄く努力してるつもりでも、目に見える戦績だとかレーティングだとか、そういった

数字が下がっていくっていうのが、やはりすごくつらい経験です。これは誰しものが多分乗り越えなきゃいけないところだとは思っています。

それ以外にも強くなるためのツールみたいなものがすごく発達していて、若手がとにかく強くなりやすい環境に今あると思うんですね。なので自分より若い世代が自分よりかなり短い期間ですごく強くなっているっていうようなことがあります。（スタート順位が）下から来た人に負けてしまうことは嬉しい部分もありますが、きちんともう一回消化をして次に向かわなきゃいけないっていう気持ちになることが多いですね。

挫折を感じた具体的なエピソードがあれば教えてください

どの大会かを今ははっきりとは思いつけませんが、すごく優勢なところから最後負けて入賞を逃したっていうタイミングがあったんですよね。その内容を自分で振り返ってみた時に、多分このままじゃあ負けていくっていう感覚があったんです。なので、そこでもう一回、自分の本当に基礎の部分きちん固め直してとか見つめ直して、自分のチェスを本当に1から作ろうと思ったことがあったんですね。それから本当に、もう基礎の基礎、初心者がやるようなこととかもきちんともう一回自分でこなして自分のチェスを改造しようとか取り組んだのが、今の強さとか今の知識とかに繋がってきているっていう感覚が

あります。

ここまでチェスに情熱を注いで来られたのはなぜですか？

やはり自分の中で、チェスは本当に面白いゲームだなっていう、信念みたいなものがあるんですね。その楽しさっていうのを追求していきたいっていうのがまず一つあります。チェスは本当に強くなればなるほど楽しさが分かってくるゲームで、本当に勉強すればするだけ面白いことが増えていく世界です。そういったところがあるのと、そういった体験を日本の他のチェスが好きな人達にも知ってほしいということで、最近では結構その面白さを伝える役割が何かできないかなということで、色々模索しているところではあります。

今までに、チェスをしていて良かったと感じた瞬間はありましたか？

これはやっぱりチェスをやっていないと知り合えない人達とたくさん知り合えたりとか、後は今回のアジア大会もそうですけど、チェスをやっていないと行けないような場所、出られないような場所に出られるっていうのが一番やって良かったことなんじゃないかなと思います。自分はそんなに運動とかも得意じゃないので、恐らくスポーツ選手にはなれなかったでしょうから、もしもチェスができなかったとしたら、こういう場には立てなかったと思いますし、他

の人に比べて自分はこれが得意だ
よって言えるものもそんなにたく
さんはなかったんじゃないかなと
いうふうに思います。なので、そ
ういう意味では、自分にとっては
チェスがあって本当に良かったな
とは思っていますね。

チェスを通して成長したと感じた ことはありましたか？

色々な国のプレーヤーとか、色
んな国の文化と触れ合うことで、
自分自身の視野が広がったって
いうのは一つあると思います。物事
を見た時にも色々な観点から見ら
れるようになったっていうのがあ
ります。あとはチェスは結構論理
的なゲームだと自分は思っている
ので、これはレベルによらずだと
思うんですが、ある程度その論理
的な思考の力っていうのは、チェ
スをやることで鍛えられるのかな
と思います。

チェスは海外でマインドスポーツ に分類されていますが、チェスに スポーツらしいところを感じるこ とはありますか？

自分自身もチェスっていうのは
凄くスポーツ的な要素があるなと
思っています。やっぱり世界中ど
こに行っても本当に同じルールで
人と対戦ができる。本当に同じ条
件で対戦ができるっていうのがあ
ります。体を動かすいわゆるフィ
ジカルスポーツと違うのは、男性
でも女性でも、あるいは年齢も関
係なく同じ条件で対戦できるって
いうのが、本当にチェスとかマイ
ンドスポーツって言われるものの

魅力なんじゃないかなと思いま
す。

チェスを指す上で、（技術面では なく）メンタル面は重要だと思 いますか？

メンタルに関しては、チェスで
は凄く大きな要素を占めると思
います。とても重要だとは思って
すけど、これは自分自身も課題に
しているところがあります。例え
ばうまくいかなかった時に、自分
の感情をコントロールして冷静に
指し手を選ぶことができるのかと
か、たくさん指せそうな手がある
中から自分の指し手を選ばなきゃ
いけない時とか、そういった意思
決定の部分に結構メンタルが影響
してくると思うんですね。こう
いったところで、メンタルとか経
験値っていうのが凄く影響を与
えてくるんじゃないかなと思いま
す。ただ、ここは結構、日本の選
手っていうのは僕に限らず、たく
さんのトーナメントで戦った経
験っていうのがやっぱり少ないの
で、ア

ジア大会に出る上でも、特に自分
ではやっぱり課題になるんじゃない
かなと予想しているところであ
るね。

ルーティンでしていることや癖で ついしてしまうことなどがあれば 教えてください。

ゲン担ぎはしてないですが、試
合前に落ち着くっていうことで
言うと、最初にピースを並べる時
のピースの向きは結構気にしま
すね。ピースを並べながら盤上
全体を一度チェックするっていう
のが、集中する為にやってるル
ーティンかなと思いますね。

9月に控えたアジア大会について お聞きします。前回2010年のア ジア大会に参加されていますが、 当時参加されて印象に残っている ことがあれば教えてください。

当時はオリンピック関係の大会
に参加すること自体が初めてだ
だったので、周りに普段テレビで
見るようなスポーツ選手がいたり



アジア大会代表選考会 代表内定時（左＝小島慎也さん）

か、本当に選手村で生活するっていうのが初めての経験でした。それは普通のチェスの大会でもないことなので、それはすごく面白かったですね。

前回に参加した時と比べて、山田さんご自身は変わったと思われませんか？

自分のチェスに関して言うと、ほぼ全部のことが変わっていると思いますし、格段にレベルは上がっていると思いますね。もちろん、序盤の知識とかそういったこともそうですし、中盤の考え方とか、あとは終盤の精度とか、そういったところは、2010年の時と比べたら、もう比べものにならないくらいレベルアップはしていると思うので、前回に比べて今回どういったプレーができるのかっていうのは、自分自身も楽しみにしているところではありますね。

戦法など具体的にかわったところはどんなところですか？

2010年大会の時は、特に自分は序盤戦が大きな課題でした。序盤でだいぶ時間を使って中終盤で崩れてしまうみたいな展開が結構多かったと記憶しているんですけど、ここ数年で序盤の知識っていうのは改善傾向にあります。逆に言うと、知識が増えて年齢を重ねたことで、判断力というか判断スピードみたいところは若干落ちてしまったかなという印象があります。今回早指しの大会なので、その辺がどういう風に影響するのかなというところがあります。け

れども、攻守とか持ち時間の使い方とかの意思決定のところでは、かなりバランスが取れてきたんじゃないかなというふうには思いません。

今、自分のチェスで自信があるところ、ここだけは負けられないという部分はありますか？

もちろん日本国内で言えば、自分が優れているところは出てくると思いますが、アジア大会に出てくる選手は、どの国からも本当に強豪が出てきています。特にアジアでは最近かなりチェスが流行っていて、強い選手もたくさん出てきている地域なので、（アジアの他国出身の）彼らと比べて自分の能力がどこまで通用するかは正直分からないところがあると思います。まずは自分の持っている能力をきちんと発揮することを優先に考えたいと思います。

また逆に変わっていないと思う部分はどんなところですか？

僕自身は、細かいことでも色々試行錯誤して変えながら改善しようとするタイプだと思っているので、変わってない部分を探すのが逆に難しいかもしれないですね。

アジア大会では他の競技も行われますが、休日に見に行きたい競技などはありますか？

恐らく日程的には、他の競技を見るっていうことは多分できないと思うんですけど、もし触れ合える機会があったら、やはりフィジカルスポーツの選手が大会前にど

ういう取り組み方をしているのかっていうのを参考にしてみたいなと思います。我々よりもシビアに体を作るとか、コンディションを整えるとかっていうことを彼らがやっていると思うので、話を聞くような機会がもしあれば、そういったところも観察してみたいなと考えてます。

普段スポーツをやられたり見たりすることはありますか？

意外とスポーツは自分ではやらないですけど、見るのは好きですね。特に球技は結構よく見ていると思います。野球とかサッカーとかをよく観戦してますね。

他のチェスの大会と比べて、アジア大会に特徴的だと思うことはありますか？

そうですね。やはり普通のチェスの大会とは全然違って、やはり周りがチェスプレーヤーだけじゃないっていうのがまず一つあると思います。それ以外にもメディカルチェックだったり、ドーピング検査だったり、そういった普通のチェスの大会ではあまり経験しないようなことを経験させていただいているのかなと思います。JOC様がバックについてくださってですね、チームジャパンとして選手団を派遣するという形になっているので、チームジャパンに貢献するというか、一人のスポーツ選手として頑張らなければいけないんだっていう気持ちになります。



ヨーロッパ遠征先のゴールデック（オーストリア）

**アジア大会まで後2か月ほどですが、今の心境はいかがですか？
（インタビュー当時＝7月上旬）**

まだちょっとアジア大会は先なので、今アジア大会について具体的にこういう風にといい考えはないです。けれども今年の大会の中ではそこが本番だと思っているので、ベストパフォーマンスを出せるような準備をしていきたいというふうに思っています。この夏ヨーロッパのトーナメントなどで経験を積みながら、なるべく2カ月の間にレベルアップできるように頑張っていきたいという風に思っています。

プレッシャーを感じたり、楽しいという気持ちはまだわかりませんか？

多分あんまりプレッシャーを感じ過ぎない方が当然パフォーマンスも良くなると思うので、なるべくプレッシャーを感じないような準備ができればいいなと思っています。

今回のアジア大会にかける意気込みや目標を教えてください。

アジア大会に出てくる国っていうのは、最近急激に力が伸びている国です。当然そこに出てくる選手っていうのもすごく強いプレーヤーばかりになるので、非常に大変な大会になるとは思っています。まずは自分ができるパフォーマンスっていうのをしっかり発揮するのが第一かなと思っています。それで結果がついてくるかっていうのは正直、時の運みたいなのもあると思います。まずは皆さんに見てもらって、楽しんでもらえるようないいゲームを指すっていうのを目標にやっていきたいなと思っています。

目標順位やパフォーマンスレーティングなどあれば教えてください。

他の国からどういった選手が何人出てくるかっていうのもあんまりつかめてないところがあるので、順位に関しては読めないところがあります。やはり2010年の大

会は自分にとってはかなりよくない戦績だったので、ひとまずはそこを超えられるように頑張っていきたいなと思っています。

アジア大会では普段チェスを指さない方を含め多くの方が山田さんの戦いぶりを見てくださると思います。応援してくれる方々へ向けてメッセージがあればお願いします。

アジア大会ということで、普段チェスをあまりご覧にならない方も結構注目して見ていただける大会なのではないかなと考えています。ですので、特に内容もそうですけれども、選手としての取り組みとかそういった面でも他のスポーツ選手に引けを取らないような形で努力して、一つでも上を目指してやっていけるように、このアジア大会に向けて全力に取り組んでいきたいというふうに考えています。そういったところを見ていただいて、応援していただければ嬉しいなと思うのと同時に、少しでもチェスの魅力を感じ取っていただいて、自分もプレーしてみようかなとか、自分も選手として少しやってみたいという方が増えてくれるのが、今回自分が出る意味かなと思っています。観戦を楽しんでいただくのももちろん嬉しいんですけども、盛大な応援をいただければとても嬉しいです。よろしくお願いします。

Interview Next Generation

ユースプレイヤー
インタビュー

このコーナーでは、これからの日本チェス界を盛り上げる若手プレイヤーをご紹介します。第9回目は、全国各地、世界の大会に積極的に参加している古瀬瑞季くん。ジャパングラシックのときに椅子の上に正座をして真剣に盤を見つめる姿、そして試合のあとにチェスやジョージアでのお話をしてくれたのがとても印象的でした。10年以内にマスターをとりたいたいという夢を追いかける古瀬くんの今後が楽しみです！

Interviewer



Kanako
Kinoshita

古瀬 瑞季さん(7)

Yuki Furuse



Data

古瀬瑞季 (ふるせ・みずき)

2015年12月19日生まれ

北海道出身

チェスを教わった人:小笠誠一先生、山田明弘先生、斎藤寛将先生

趣味:読書(微生物、科学、数学)、アイススケート

学校の好きな教科:まだ学校で習っていないけれど理科

将来の夢:10年以内にマスターをとりたい

好きな食べ物:ボルシチ、ピロシキ、ブレッツェル

チェスとの出会いは？

4歳のときにジブリの「天空の城ラピュタ」にチェスが出ていたシーンを観て僕もやってみたい！と思ったのがきっかけです。5歳の誕生日に「マスターチェス」を買ってもらってルールを勉強しました。その時は愛媛県に住んでいたのでチェスを指せる場所がなく、チェックメイトの本だけを解いていました。5歳の夏に千葉県に引っ越したので、松戸チェス教室に通い始めました。そして6歳の誕生日に初めて参加した公式戦「千葉キッズチェス選手権」で全敗して悔しい思いをしたので、東京に引っ越してからは斎藤先生の教室で個人レッスンを受けるようになり、色々な大会に参加するようになりました。

普段どんなふうチェスをしてる？

普段は斎藤先生のレッスンを毎週受

けたり、オンラインでラピッドだけを指したり、習い事の移動時間にタクティクスを解いています。あとは全国色々なチェスクラブに遊びに行くのが好きです。

チェスで思い出に残っていることは？

ジョージアで開催されたWorld U8-18 Rapid & Blitz Championship2023にU8で参加したことです。初めての海外遠征で日本からは僕だけの参加でしたが、世界中から集まった同い年の子との試合はとても貴重な体験でした。ドイツから参加していたLilianちゃんに頑張っドイツ語で話しかけて友達になったことも嬉しかったです。閉会式ではジョージアンダンスが観れたり、それぞれのカテゴリーの1位の国の国歌が流れるのも面白かったです。



ベストゲームを教えてください

まだ勝ちのベストゲームはないので、いつかみんながびっくりするような試合をしたいです。

今までに行ったことのあるチェスクラブは？

赤羽(旧蕨)チェスクラブ、池袋チェスクラブ、伊万里チェスクラブ、宇都宮チェスサークル、大崎チェス教室、川崎チェスクラブ、KQチェスクラブ、神戸チェスクラブ、札幌チェスクラブ、将棋の森、東大チェスサークル、中野チェスクラブ、練馬チェスクラブ、筑波大学チェスサークル、幕張チェス教室、町田チェスクラブ(公園チェス)、松戸チェス教室、松本チェスクラブ、武蔵境チェスクラブ、横浜チェスクラブ、和光朝霞チェスクラブ、早稲田チェスサークル。いつもありがとうございます。いつか全国のチェス

クラブに行ってみたいです。

読者のみなさんに伝えたいこと メッセージをどうぞ！

学校が怖くなって、行けなかったときに大学チェスサークルの人たちやチェスクラブの人たちが平日も遊びにおいでと言ってくれたのがとても嬉しかったです。チェスだけでなく、外で一緒に遊んでくれたり、みんなでご飯を食べたことがとても楽しかったです。校長室登校だったときは校長先生たちにチェスを教えたり、海外大会に参加することも応援してもらえました。そのおかげで少しずつ学校に慣れていきました。

もし僕みたいに学校に行くのが苦手な子がいたら、学校以外の居場所を探してみるとそこに行くのが楽しくなって元気になれると思います。

ユース・ジュニアプレーヤーのみなさん、チェスへの思いや、普段どのようにチェスをしているか、全国の仲間たちに教えてくれる人を募集しています！

また、みなさんの周りで紹介したいジュニア・ユースプレーヤーを教えてください！全国でチェスを楽しむ若いプレーヤーたちが少しでも多くの仲間と繋がれるように、また、大会には出ていなくても各地のクラブや家でチェスを楽しむ様子など、いろいろな形でチェスを楽しむ喜びを共有できるように。

応募・紹介はこちらまで：
japanchess.editor@gmail.com
編集部(担当：木下)

チェス大会 【文】上杉賀子 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

息子(上杉 晋作・2007年高校1年生で全日本史上最年少チャンピオン)が2009年チェス国籍日本の最年少FIDEマスターとなり2010年全米高校選手権で優勝するまで(さらにアメリカのSenior Masterの資格となるUSCFレート2400の壁を超えるまで)参戦した、アメリカの全ての公式戦、約180大会の様子を順番に載せてみようと思います。渡米から1年半、紆余曲折を経て現地生活に馴染んできた頃、小学校のチェスクラブの案内を見かけて入部。これが始まりでした。その一年後、いよいよトーナメントプレーヤーとして出陣です。

NO.71 第38回アトランティック・オープン

2006年8月25日～27日

晋作(15歳)の結果：2.5P/5Game

レーティング 2166→2169

大会詳細：[USCFサイトより](#)

晋作のチェストーナメントの原点の大会に5回目の出場です。ずっと同じホテルで行われています。初日のエントリーでちょっと数えたところ、OpenセクションのタイトルホルダーはGM2人、IM3人、FM7人、WGM1人、WFM1人くらいでしょうか。FIDEトーナメントなので対戦表の晋作の名前の横には「JPN」と書かれています。Openではあとウクライナとナイジェリア、でも3人もアメリカ在住です。

第3戦までは立ち入り禁止のあの枰内(10番ボードまで)でできました。公式戦での枰内は初めてです。皆の注目を浴びながらなのちょっと緊張した様子でした。

XC(クロスカントリー)のコーチから走るように言われているので練習着と靴を持ってきましたがやはりそういう気にはなれないようで、下のグリルでハンバーガーを食べた後などもチェスのオープニングの本を「珍しく」見ていました。Openに出るのはかなり緊張するようです。あまり弱すぎると相手にも申し訳ないからでしょうか。枰内のタイトルホルダーたちからもじっと見られやすいですね。全くの挑戦者でしかなかった頃と違ってこのオープンでポイントを上げることを期待されてくる時期は気持ちも大変なんですね。GMやFMに混じって枰内にいる「子供」は全米の有名人、今までは遠い存在でしたがやっと追いついてきました。

8月25日第1戦、FM FIDEレート2306 USCFレート2323に負け。今回2度目の対戦。少し前あたりから

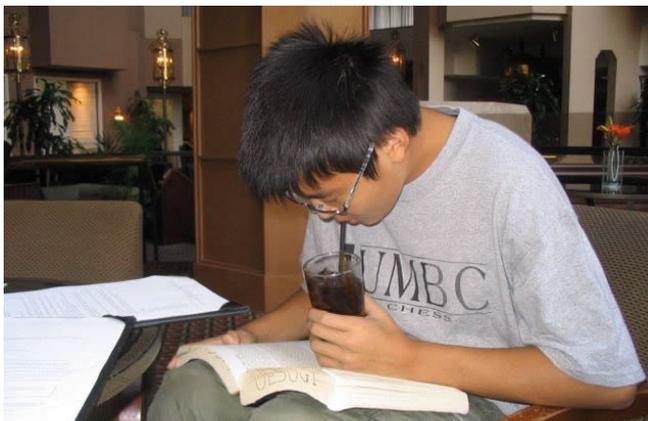
2300台にも勝つつもりで積極的に指している様子。夜7時半試合開始。終わったのは12時半、寝たのは午前2時半。

8月26日第2戦FIDE 2194 USCF 2244に勝ち。これが4度目の対戦。2005年バージニアオープンでチャンプをとった友人。今まで引分けか負けで勝ったことがなく、ついこの前の州オープンで負けてしまった相手です。今回初めて5時間半の熱戦を制しました。大勢のギャラリーが見守るエンドゲームは圧勝でした。

第3戦 FM FIDE 2295 USCF 2305に引分け。今回2度目、前回と同様引分け。

対戦終了後は仲間(というか先輩達)とバグハウスを楽しみ、部屋に戻ってきたのは夜中12時をまわっていました。

8月27日第4戦モンゴルの人。知



Nunn's Chess Openingsで下調べする晋作



バグハウスを楽しむ晋作達

チェス大会 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

り合い(ほとんど知り合いだらけですが)なので第2戦のエンドゲームをずっと見てくれていました。結果、負け。そして、第5戦は勝ち。

今回の大会では強い子達の「お父さん達」の参加が目立っていました。そのお父さん達同士が対戦したりとなかなか面白かったです。OpenにひとりUnratedがでていますが彼も「お父さん」です。30年以上前レート2000強あった方だと初めて聞きました。彼のお子さんは晋作より2年下、州の学年No.1です。

ハイスクールにはいって初めてのクロスカントリー大会は出場できなくて残念でしたがとても楽しんでいる晋作をみて「本業」に来て良かったと思います。

Openセクションは一戦一戦の重みや疲れがちがったのでしょう。第5戦終了後帰ってきた夜は頭も冴えて眠れなくて3時間の睡眠で翌朝登校。ハイスクール9年生になりました。チェスにかかる比重が大きくなってきているのでなかなかクロスカントリーとの両立も難しいです。翌週の土曜日はクロスカントリーとチェスと優先順位最下位の補習校ですが補習校に行くことに。

ハイスクールでは一応チェスクラブがあるのでランチの時にいって、お弁当を食べながらバグハウスをしたそうです。9年生の保護者会の説明で課外活動にも積極的に参加するようにとの副校長の話の中で「drama や football や chessclub」と3つの例のなかにチェスクラブがはいついてちょっとびっくりしました。

今年も州の小学校チャンピオンのチェスクラブからコーチ陣の一人

として招かれました。クロスカントリーの練習が毎放課後なのでスケジュールがきついのですが10月半ばから行くことにしました。シーズンごとのハイスクールスポーツチームの練習の合間を縫って教えます。

アメリカにきて6年半、中1の時にきた長男がこちらの大学に入学し、寮生活をはじめるので家を離れました。行く直前のリビングは寮に持ち込む荷物で一杯になりました。小型冷蔵庫、デスクトップのパソコン、プリンター、アイロン、エレキギター、衣類、靴 etc.小学校卒業式の翌日こちらに連れてきて英語力ゼロだった長男がまさかアメリカの大学に行くようになるなんて。当時小学3年、ドッジボール命だった晋作がまさかチェスをするようになるなんて。。。PTAから逃げ回っていた私がまさかPTAで走りまわっているなんて。。。人生本当に分からないものです。

8月18日、主人と二人で長男の新たな門出を見届けることができました。入寮して荷物の整理をしたあと、長男は私達とは全く別行動。すでにFacebookで新入生ほとんど全員と知り合いになっているので、あちこちで声をかけられ忙しそうでした。その夜も友達とイタリアンにいつて私達とのFarewell Dinnerはなしでした。友人の親御さんも「あと1時間ほどで帰る。早く帰ってもらいたいようだから」と本来数泊を予定していたのに多分帰られたと思います。その反対に勿論ほとんどの学生は親子3人で学内をまわっているのですが。。。私達も数家族と友達になりメールアドレスを交換しました。



入寮を完了した長男と私

入寮後の一週間はオリエンテーション。老人ホームに慰問にいったり、寮対抗合戦があったり非常に楽しく過ごしている写真を見ることができ安心です。新入生ばかりの写真でも真ん中でポーズをとって目立っています。それでもチャットで聞いています。「生きてる?」「食べてる?」「寝てる?」「授業の英語わかる?」うるさい母親でごめんなさい。でもやっぱり初めての環境は心配です。

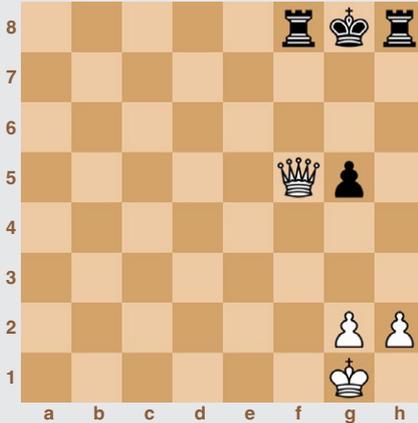
私のほうは、新年度がはじまり、高校ボランティアの最初の仕事は朝7時からハイスクールで行われたStaff Welcome Breakfastの手伝い。先生方が翌週月曜日からの授業に備えて数日間学校でミーティングをするので彼らへの感謝をあらわす朝食。すべてPTAのボランティアでまかなわれます。カフェテリアがホテルのバフェ buffetに变身します。こういう機会が年に何度かあり、私はいつも手伝ってきました。もう慣れたものです。校長、理系アカデミーの先生、数学主任ほか長男をよく知っている先生達と2ヵ月半ぶりに会えて長男の近況を話せました。

初心者向け メイト・ジム

02 クイーンのエイト (2)

【文】山田明弘

例題 白番次の1手は？

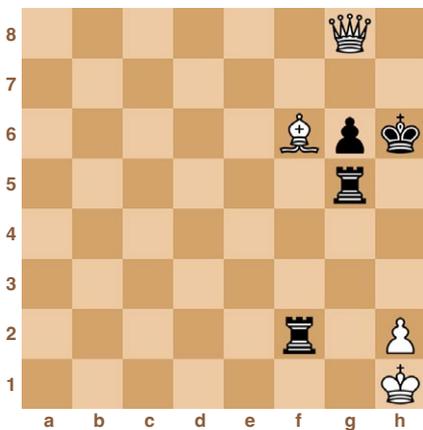


例題は Qg6 でチェックメイト。これをエポレット・メイトと言います。ルークが2つ、エポレット(肩章)のように守っていても邪魔にしかありませんね。クイーンは非常に強力なのでひとマスはなれてのメイトも多く見られます。

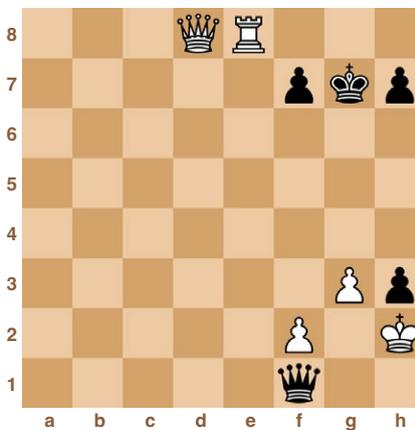
実戦でよく見る問題を集めました。これができたらクイーン・マスターと呼ばせてください！

問題 すべて白番

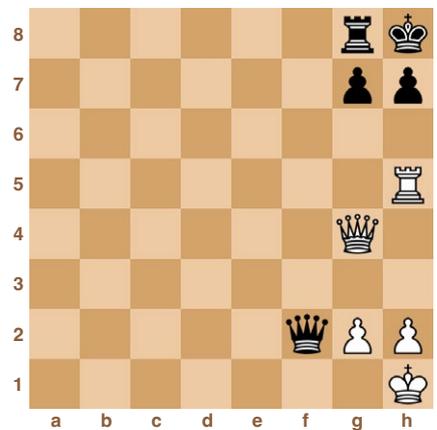
01 1手メイト



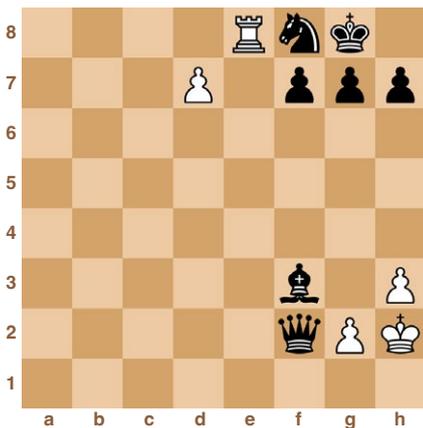
02 1手メイト



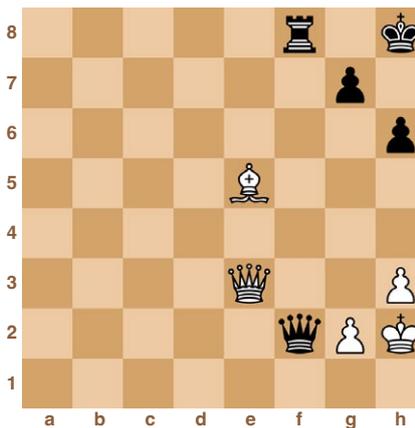
03 2手メイト



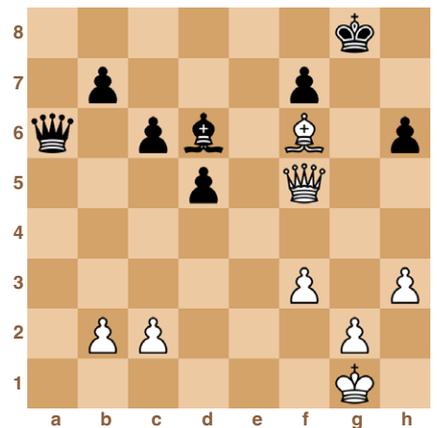
04 2手メイト



05 2手メイト



06 2手メイト



正解は 34 ページ

編集後記

神田大吾

友あり、遠方より来たる。また楽しからずや。

7月29日と30日、シニア選手権に出場しました。最近、強い子供さん、「いくらなんでも、このレーティングはないだろう」と思わざるを得ない坊やたちに何度も泣かされている私ですので、同年配ばかりと当たるのはそれだけで安心感があります。

そして、驚きました。リストトップのJones StephenさんをChessBaseで調べたら、1942年生まれなので御年81歳です。指折り数えて、うん、私もあと16年は現役でチェスを楽しめるな、と励まされたのでした。

でも、良いことばかり続かないのが人生です。初戦に勝ち、ルンルン気分で久々に配信ボードに上がった第2Rの神田一真鍋浩、右図は17.Ne1 Ba3まで。



序盤で白に一失あり、かなり苦しくなったこの局面。悪い流れを変えるには、駒の取りがかかった瞬間に一本きかすことが肝心、と、指した次の手が... すっば抜けました（泣）。

18.Nc5 ?? Bxc1

0-1

ルークを取ったビショップがそのままクイーンに当たるのが、なぜか見えていませんでした。交換損だけでなく、彼我のポーンの形も、駒の働きも大差で、攻防ともに見込みがないのでここでリザインしました。配信が始まる時には既に終わっていたため、「画面が止まっているので配信の事故かと思った」と話題を提供したオマケ付き。トホホ...

でも、いいんです。同時開催の女子選手権に、はるばるオランダからマガジン編集部長が参戦。Zoomでは月1の編集会議で会ってはいるものの、リアルに会うのは五月以来で久しぶりです。また、編集部長vsレーティング部員のスタッフ対決。ゲーム前はなごやかにおしゃべりしていて、ゲーム開始と同時にきりっと表情が引き締まり、盤面に向き合う。すがすがしい雄姿を目の当たりにして、観戦していた老人は元気をもらったのでした。

10月発行予定の次のChessMagazineは女子選手権とシニア選手権特集で、坂井あづみさん、Jonesさん、真鍋さんの自戦解説が掲載される予定です。ご期待ください！



編集部ギャング

メイト・ジム 解答

01 1.Qh8#

02 1.Qg5#

03 1.Rxh7+ Kxh7 2.Qh5#

04 1.Rxf8+ Kxf8 2.d8Q#

05 1.Qxh6+ Kg8 2.Qxg7#

06 1.Qg4+ Kf8 2.Qc8# (1... Kh7 2.Qg7#)

出題は 32 ページ

編集部

木下奏子 神田大吾

山内美加 真鍋浩

山田明弘 菊池祐樹

鈴木秀聡 山田剛史 (順不同)

発行

一般社団法人 日本チェス連盟

本誌に掲載された写真、イラスト、記事、棋譜の解説等について、無断転載および無断配布を禁止します。著作権はそれぞれのクリエイターにあります。

ご意見・ご感想などはjapanchess.editor@gmail.comまでお寄せください。